

令和元年度鎌ケ谷市男女共同参画推進懇話会第1回会議録

日 時 令和元年5月30日(木) 10:00～12:05
場 所 鎌ケ谷市役所本庁舎6階 第1・2委員会室
出席委員 内海崎貴子委員、藤本勲委員、芹澤佐知子委員、石田友和委員、
太田直美委員、平田真裕美委員、有川かおり委員
欠席委員 山田芳裕委員、佐川幸江委員、今村喜和子委員
事務局 後藤市民活動推進課長、小林男女共同参画室長、藤嶋補佐、
萩原主任主事、山崎プロジェクトマネージャー
傍聴者数 1名

会議内容

- 1 開会 小林男女共同参画室長
- 2 会長挨拶 内海崎男女共同参画推進懇話会会長
- 3 会議録署名人の選出 名簿順により石田委員、太田委員が選出された。
- 4 議題
 - (1) 鎌ケ谷市男女共同参画推進計画第2次実施計画事業の進行管理について
 - (2) その他

(事務局)

議題(1) 鎌ケ谷市男女共同参画推進計画第2次実施計画事業の進行管理について説明。

(委員)

12月に進捗管理について各課にヒアリングを行ったということだが、その結果、改善が図れた点などを教えてほしい。

(事務局)

男女共同参画の視点のチェック項目が一番増えたのは、目標3の「ワーク・ライフ・バランス」であり、進行管理表12ページの事業N. 41「ひとり親家庭等に対する情報・相談・経済的支援」については、実績内容の記載のところで、今まで具体的な数字は挙がってこなかったが、ヒアリングを行った結果は、具体的な相談件数の記載や男女共同参画の視点のチェック項目も昨年よりも増えており、事業実施度の判定もBからAに上昇した。また、18ページの事業No.

6 4「男女共同参画のための指導者研修」の事業実施度について、昨年度のA判定から今年度B判定になっているが、これは、昨年度、課題・調整事項等の部分が空欄で記載無しだったが、ヒアリングを行った結果、具体的な課題を把握することができたことにより、去年は出来ていたと評価していたものが、さらに改善すべき目標ができて、その目標に対しては、もう少し努力が必要ということで、B判定となっており、こういったところにヒアリングを行った結果が出ているのではないかと感じている。

(委員)

個々の取組の実績、課題等に関しては、この一覧表で読み取れるが、例えば、目標3の「男女のワーク・ライフ・バランスの支援」など、全体的な傾向として、どこがうまくいって、どこに課題があるのか。全体的な目標に対しては、どのように考えているかという広い視野で分析する視点は必要だと思う。

(委員)

この一覧表には表れないが、男性だとどうだったのか、女性だとどうだったのか。共働きの方、育児をやっている方、介護をやっている方など、それぞれの属性だったり、働いている状況だったり、条件を入れていくとまた違った判定が見えてくる可能性がある。

(会長)

委員のご指摘のとおり全体的な視点や細かい分析は必要であるので、次回報告の際は、可能な限り、その点も含めて説明できるようにしていただきたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

自己評価は、誰が行っているのか。

(事務局)

各担当課の担当者が判定しているが、回答いただく際は、所属長まで決裁を受けている。

(会長)

第三者が見てもわかるような客観的評価が示せるとよい。担当者は自分から悪い評価はつけないと思う。

(会長)

計画の中で設定した目標ごとにご意見を求める。まずは、目標1の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

2ページの事業No. 7「市女性職員の管理職への登用の促進」について、前回(平成29年度)は、管理職83名中20名が女性管理職だったが、今回(平成30年度)は、87名中18名となっているが、減った理由は、何か。

(事務局)

定年退職した結果であり、組織が大きく変更したというわけではない。

(会長)

2ページの事業No. 8「女性教員の管理職への登用の促進」について、校長、教頭、指導主事の女性人数の記載があるが、他市と比較して、どういう状況にあるのか。わかれば教えていただきたい。

(事務局)

他市の状況は把握していない。

(会長)

校長2名は、全体で何人なのか。

(事務局)

小中学校全14校中2校が女性の校長である。

(会長)

割合がわからないため、全体の人数も記載してほしい。

(事務局)

承知した。

(会長)

目標2の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

4ページの事業No. 15「男女共同参画の視点に立った市の業務の見直し」の実績内容について、経緯も含め説明願いたい。

(事務局)

マタニティ・ハラスメント研修について、今年度から、主催が男女共同参画室から人事室に変更になった。経緯としては、今まで男女共同参画室が単発で研修を行っていたが、今後、職員全員の参加を義務付けるため、人事室に要望し、人事室が主催で行う定例の研修の中に、組み込んでもらえることとなった。

(会長)

5ページの事業No. 20「行政刊行物等に関するガイドラインの周知」について、昨年度改定した表現ガイドは、どのように活用されているのか。

(事務局)

平成31年3月20日付けで、庁内通知を行い周知しているほか、令和元年5月13日に開催した男女共同参画推進会議で関係課長に配付し、改定概要や目的などを説明したうえで、今後について、男女共同参画の視点に配慮した表現をするよう依頼している。また、広報かまがやを担当する部署にも個別に依頼文を送付し、イラストや表現に気をつけるよう依頼している。

(会長)

昨年度、何回も議論を重ねて作り上げたものなので、実績内容の記載について、「見直しを行った。」ではなく、「改定し、発行した。」と明確に記載したほうがよいと思う。

(事務局)

ご指摘のとおり修正する。

(会長)

目標3の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

13ページの事業No. 44「ボランティア活動など地域社会への参加の促進」について、取組内容のところで、男女きらりフェスタを記載しているが、当日参加団体として関わっていた中で、男女共同参画室と男女共同参画関係団体の新たな取組として、アウェアネスリボンの周知活動を行ったので、それは実績内容のところで、記載したほうがよいと思う。

(事務局)

承知した。

(委員)

目標3のところが一番実績内容などがきちんと詳しく記載されていると感じた。何名参加した等、実際に参加していない委員が把握できるような形にしており、とても改善してきたと思う。

(事務局)

担当課には、参加者や把握している人数など具体的に数値を記入するよう求めている。また、記載内容の具体化や数値を可視化することで、新たな課題に気づき、今後の課題の記載内容が変わってきているところもある。

(会長)

目標4の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

14ページの事業No. 48「DV対策ネットワークの構築」について、課題・調整事項のところ、情報収集が困難であるとあるが、説明願いたい。

(事務局)

シェルターの話であり、シェルターは情報を出さないため、情報収集が難しい。

(会長)

記載内容を工夫したほうがよい。シェルターは情報を出さないことが原則となっている。このような記載だと、なぜ情報を集めないのかということになってしまう。

(事務局)

承知した。

(委員)

14ページの事業No. 49「相談体制の充実」について、女性のための相談の年間件数が、145件となっているが、その中に外国人はいるのか。

(事務局)

外国人はいない。

(会長)

外国籍の方への対応については、現行計画では特に触れていないが、次期計画

では、考えていかななくてはならないと思う。

(委員)

145件という件数は、一般的に見て多いのか。

(事務局)

この数字は、女性の生き方や生活相談などのカウンセリングの件数であるので、実際のDVの件数ではない。相談場所としての周知が行き届いてきた結果、この件数になってきたのではないかと思う。

なお、DV相談については、男女共同参画室の職員が電話や窓口で対応している。

(委員)

鎌ヶ谷市では、全般的な相談を受けるワンストップ的な相談窓口はないのか。

(事務局)

ワンストップ的な相談窓口はないが、法律相談、人権擁護相談、行政相談など相談内容に応じて、窓口を案内している。

(委員)

14ページの事業No.50「配偶者暴力相談支援センターの設置に関する検討」について、課題・調整事項等の記載内容を修正願いたい。また、平成30年度と平成31年度の取組内容が同一のため、書き方に工夫願いたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

15ページの事業No.53「ドメスティック・バイオレンスについての研修等の実施」について、職員研修は平成30年度が27名で、平成29年度が28名となっており、ここは少しでも増えてほしいところであるが、いかがか。

(事務局)

通常業務がある中での参加となるため、業務との兼ね合いで参加者が増えない状況である。また、この研修は、毎回同じ講座内容となるため、一度受けた職員は基本的に、再度受講はしないものとなっている。

(委員)

そのような形で研修を実施しているのであれば、単年度参加者数だけでなく、職員全体の何パーセントが受けているのかどうか。把握していると思うので、その点を追記していただきたい。

(事務局)

承知した。

(会長)

教育委員会と協力して、市内中学校生徒に対してデートDV予防セミナーを実施していることは、特筆すべき点であるし、とてもよい取組だと思う。

また、この計画には、含まれていないが、スクール・セクシュアル・ハラスメントの取組については、学校現場では非常に遅れていると感じている。昨今、教職員の不祥事も増えているので、次期計画では検討すべき事項になってくると思う。

千葉県教育委員会はその点について、熱心に取り組んでいるようである。

(事務局)

鎌ヶ谷市教育委員会においては、千葉県からの通知もあり、スクール・セクシュアル・ハラスメントに関する研修をすでに実施している。

(会長)

目標5の取組について、ご意見をいただきたい。

(会長)

先ほど、事務局が話した研修については、18ページの事業No. 63「男女共同参画教育のための教職員研修」のところで、不祥事防止研修会やモラルアップ研修会と記載してあるので、そこに含まれていると思うが、スクール・セクシュアル・ハラスメント研修を実施しているのであれば、その点も明記したほうがよい。

(事務局)

承知した。

(会長)

目標6の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

20ページの事業No. 70「消防団への女性の参画」について、自分は地元
の消防団員として参加しているが、25名いる中で女性は2名で、まだまだ少な
い状況である。鎌ヶ谷市の消防団員における女性の比率は何パーセントなのか、
記載した方がよい。また、課題の部分が未記載で、課題がないというのにもか
かと思ふ。

(事務局)

鎌ヶ谷市は数年前に女性消防団を発足したが、人数はまだまだ少ない状況で
ある。女性の比率を追記するとともに、課題も記入する。

(会長)

消防団に今まで参画してなかった女性加わることで、男性だけでは気付か
なかった新たな活動ニーズなど見えてくることもあると思う。

(会長)

目標7の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

21ページの事業No. 71「リプロダクティブ・ヘルス/ライツの学習の実
施」の健康増進課の取組について、ウェルカムベビースクールの参加者が多いこ
とや、ライフデザイン啓発冊子について、アンケート結果で89.5パーセント
が自分の将来を考えるきっかけになったと回答していることは非常によい取組
みだと思ふ。

(事務局)

ライフデザイン手帳については、年代ごとに、自分の将来設計ができるような
ものになっている。

(会長)

22ページの事業No. 72「思春期における健康支援」の指導室の取組につ
いて、現計画には入っていないが、セクシュアル・マイノリティに関して、学校
現場ではかなり問題となっていると思うので、その点、把握できる範囲で構わな
いので、少し情報収集しておいていただきたい。

(事務局)

承知した。

(会長)

目標 8 の取組について、ご意見をいただきたい。

(委員)

24 ページの事業 No. 79 「男女共同参画条例制定に向けた条件整備」について、取組内容の記載で、「検討は終了している」とあるが、このような言い切り方でよいのか。

(会長)

事業 No. 80 「男女共同参画推進審議会の検討」の取組内容の記載についても、同様である。市民や関係団体において条例制定の機運がない中で、条例化を進めていくのは難しい、まずは、前段階として、現行計画の取組を着実に進めていく中で、機運の高まりを待つということだったと思うので、検討終了ではなく、休止のような結論だったと思う。そのため、記載内容を修正していただきたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

25 ページの事業 No. 84 「市職員研修の充実」について、新規採用職員以外の参加者が 0 人となっているが、昨年度も 0 人だった。この理由は、いかがか。

(事務局)

この研修自体が、新規採用職員に対する研修となっており、「その他の職員も都合がつけば、自由に参加してください。」というものであるため、なかなか参加が難しいところである。

(委員)

平成 30 年度と平成 31 年度の取組内容が一緒になっている時点で、この課題に対して、本気で取り組んでいないように感じる。

(会長)

数値目標を設定すると担当課としては、取組方法が違ってくると思うので、その点人事室と調整願いたい。

(事務局)

承知した。

(会長)

目標1から目標8まで、目標ごとにご意見を伺ったが、全体を通してご意見をいただきたい。

(委員)

今回、事務局が計画に位置付けられた取組の昨年度の実施結果を紙で報告し、その実績内容に対して、委員が意見を述べるというやり方で、計画の進捗状況の報告としているが、このやり方が生産的なのか検討したほうがよい。

また、目標1から目標8までまんべんなく意見を聞いたが、例えば、今回の会議では、ワーク・ライフ・バランスとDVについて話し合うとか、的を絞ったやり方もあると思う。

取組そのものをよく把握できていない中では、書き方に対する意見しか述べられないもどかしさがある。

(会長)

委員の意見を参考に、重点目標を設けるなど、検討願いたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

全体的に記載内容を見ると平成30年度と平成31年度の取組内容が一緒になっているところが多くあるが、いかがか。

(事務局)

平成30年度と平成31年度の取組内容が一緒になっているからといって、必ずしも何も変わっていないわけではない。継続的改善は随時行っている。ヒアリングをすると実際はやっているという部署もある。担当課が書く手間を惜しんで同じ内容にしている部分もあると思うので、そこを事務局としては引き出していけたらと思う。

(委員)

平成30年度と平成31年度の取組内容が一緒になっているからといって、全く前進がないという一括りの考えは、いかがかと思う。

文章だけで実態を把握できていない中では、数年前に取組方法を改善して、それを維持している取組もあると思うので、それはそれで維持していく大切さもある。

(会長)

議題(2) その他事項で何かあるか。

(委員)

最近、LGBT等の性の多様性に関して、テレビなどでよく話題になっている。近々では、千葉市がパートナーシップ宣誓制度を導入したが、鎌ヶ谷市には、そのような制度の要望などあるのか。

(事務局)

これまで特段なかったが、昨年度にパートナーシップ条例などの市政へのメールが3件あり、そのうち、1件が導入してほしいという要望で、残りの2件がパートナーシップ条例について何か検討しているかという問合せであった。

今年度もメールで2件要望があり、そのうちの1件はつい先日あったところである。

市としては、現在の社会情勢において、LGBT等の当事者がパートナーシップ制度について広く声を上げている状況やその制度の認知度が高まっていることを認識しており、千葉市など導入自治体の状況を把握している状態である。

今後は、千葉県や近隣市、導入自治体の状況等を踏まえ、どのような方法があるか研究していきたいと考えている。

(会長)

茨城県でもパートナーシップ制度の導入を進めているようである。次期計画を策定していく中でも、そのような課題に関して、検討していく必要があると思う。

○以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和元年9月18日

氏名 石田 友和

氏名 太田 直美